

一般社団法人日本映像アーキビスト協会 2026 年度事業計画書

1. 映像アーカイブに関する調査研究

● 「JAM2026」の企画と実施

例年通り、イベント「JAM2026」を開催する。今年度も、会員限定ではなく、非会員も対象とした公開イベントとし、非会員の参加は有料とする一方、本イベントをきっかけに入会への勧誘を行う。

イベントは、“フィルム”をテーマとしたベーシックガイダンス、実験映画や災害と地域映像アーカイブなどのセッション、ならびにライトニングトークによってバラエティーな構成とし、今後会員による分科会や一般公開による研究会へと発展するための萌芽と位置づける。また、懇親会を含め、映像アーキビストによる交流の場とする。

尚、会場確保の都合により、本年度は総会報告会を行わない。

● 公式ホームページの充実と Web 会議プラットフォームプラットフォームを用いた交流の試行

(1) オーラルヒストリー⇒本年度も当会もしくは会員が関わるイベント等の採録・公開を行う。また、映像アーカイブに携わる人々のオーラルヒストリーについては対象者の検討を行ない、順次インタビューに着手する。

(2) 「ヒアリングによる日本タイピング史」のプロジェクトの協力、協会ホームページへの掲載⇒会員の郷田真理子さんによる『「現像所技術者に聞く 一日本タイピング技術史をまとめる試みー』、および引き続き協力、ホームページへの掲載を行う。吉田夏生さんによる「トロント通信 一映画の保存を学んでいますー」の掲載を引き続き行う。新たな試みも計画する。

(3) 二月に一回くらいのペースで月末に、「三十一会(仮)」という出入り自由のオンライン上の集会を開催。会員間の相互交流を目的として、東京開催のイベントに参加しづらい会員との問題意識の共有、日々の業務での困りごとの相談、身近な出来事を気軽に話し合える場にしたい。

● アーカイブ・ツーリズムの企画と実施

映像アーカイブ活動の現場や映像アーカイブと重要な関わりを持つ場所を視察し、活動に携わる映像アーキビストや関係者との交流を図るために、昨年度に引き続き、アーカイブ・ツーリズムを企画・実施する。

● 映像アーカイブの手法や事例の調査研究と情報共有

国内外における、映画だけではなく映像全般のアーカイブの技術と事例を広く調査し、情報共有する。

2. 映像の文化的、芸術的、歴史的及び教育的価値に対する社会的認識ならびに関心の向上促進

- 基金設置を含めたファンドレイジングの方法、映像アーキビストの活動支援の調査
当法人による基金設置を含め、映像アーカイブ活動の立ち上げと継続を支えるためのファンディングとして、公的支援やメセナ等の民間支援の可能性を探るために、引き続き情報収集を行う。また、映像アーキビストの活動支援、及び派遣業務の実施に関する情報収集を行う。
- 3. **映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力**
 - 映画フィルムの価値や魅力を後世に伝えるための勉強会や見学会、AI 活用などを含めたデジタル分野の勉強会の企画・開催を行う。また、昨年度実施できなかった一般公開イベントを企画する。
- 4. **映像アーカイブ、及び映像アーキビストの認知向上を目指す広報活動**
 - ホームページ、X(旧 Twitter)を活用し、映像アーカイブの重要性、映像アーキビストの社会的認知を図る。非会員に向けたイベント開催も模索。
 - 「Podcast」の活用⇒映像アーキビストの交流と映像アーカイブの普及啓発を目的に、会員等をゲストに招き、開かれた語り口で専門的知識を共有する Podcast を制作・配信する。
- 5. **2026 年度定時総会の開催**
 - 2026 年度定時総会を開催する。なお、今年度もコロナ禍後の生活スタイルの変化、全国に亘る会員もいることから、従前の通り、オンラインによる総会開催とする。

以上